

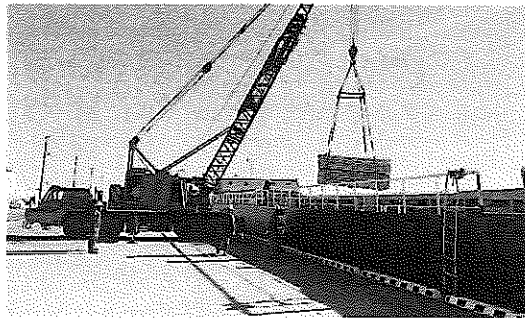
杉、桧製材品が内航船で入荷

杉梱包材が資材不足時に存在感

瀬崎林業

瀬崎林業（大阪市、遠野嘉之社長）と九州の大手製材業者が供給する杉や桧の製材品が、11月24日に川崎港へ入荷した。

入荷した製材品は、は依然として引き合いの強い桧KD土台や杉材と建築用KD材約800立方尺の計約1600立方尺。建築用材荷分は既に完売している。また、杉梱包材は順次販売していく予定だ。



内航船は三池港（福岡県）を出港し、川崎港に入港した

同社は2019年から内航船で製材品を入荷してきた。今年に入ってから3回目で、1回目となる4月は杉梱包材を中心に製材品約1500立方尺、2回目の7月は杉梱包材や建築用材など約1600立方尺を仕入れた。いずれも市中で建築用材、梱包材とも不足感が強まっていたなかで、取引業者に対する貴重な資材供給となった。

という。同社は、主要商品である梱包用チリ製材品その供給を軸としながら、国産材の取扱量も増やしていきたい考えだ。資材を幅広く取りそろえることで顧客の様々なニーズに対応していく。

特に、今年夏ごろは梱包用チリ産ラジアタ松製材品の入荷が産地からの船の遅れなどで滞り、首都圏を中心に品薄状態が続いていたため、杉梱包材はチリ産材に代わる梱包資材の一つとして存在感を見せた。杉の特徴である軽さなどを理由に、率先して杉梱包材を使用する梱包業者もいる